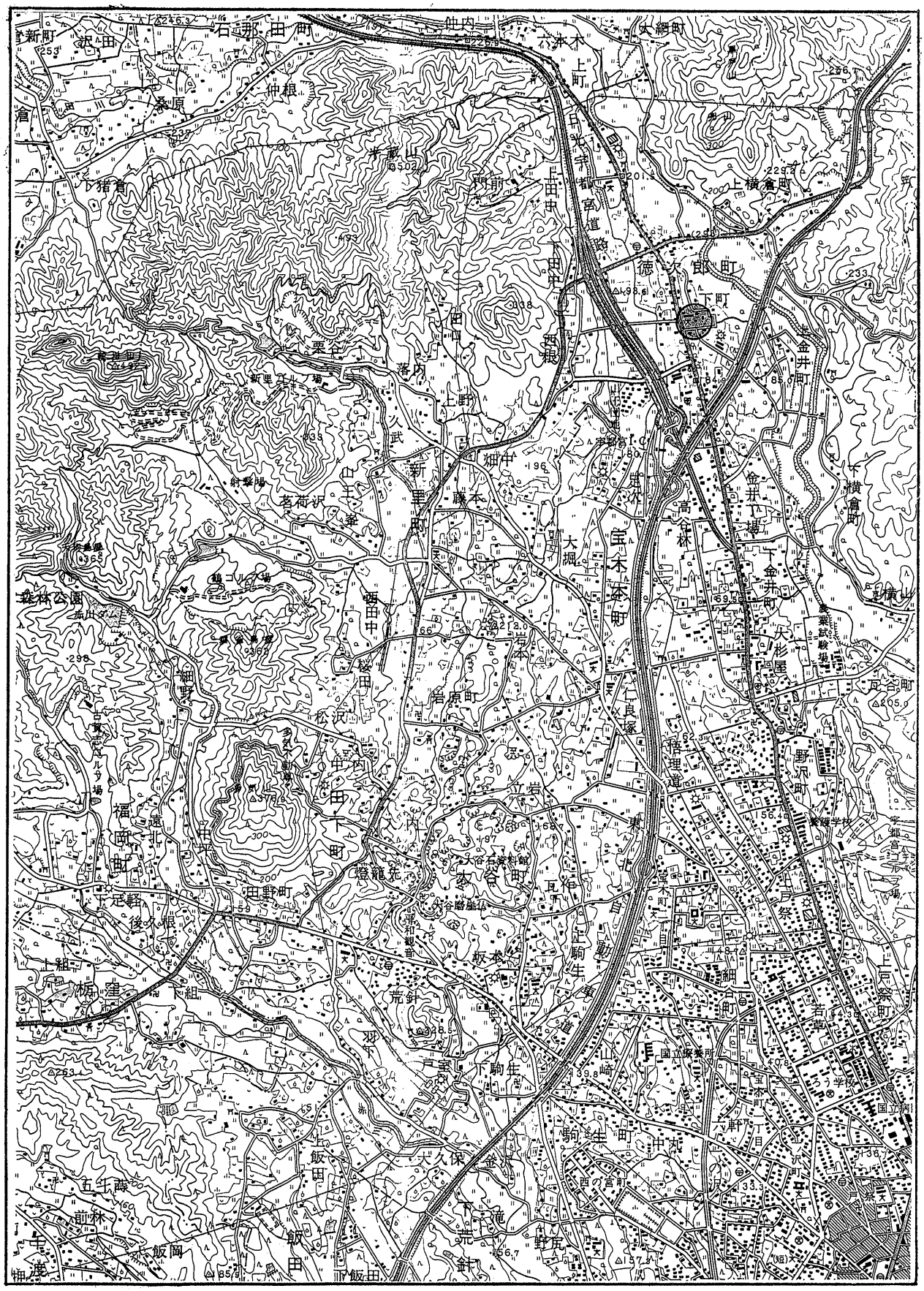
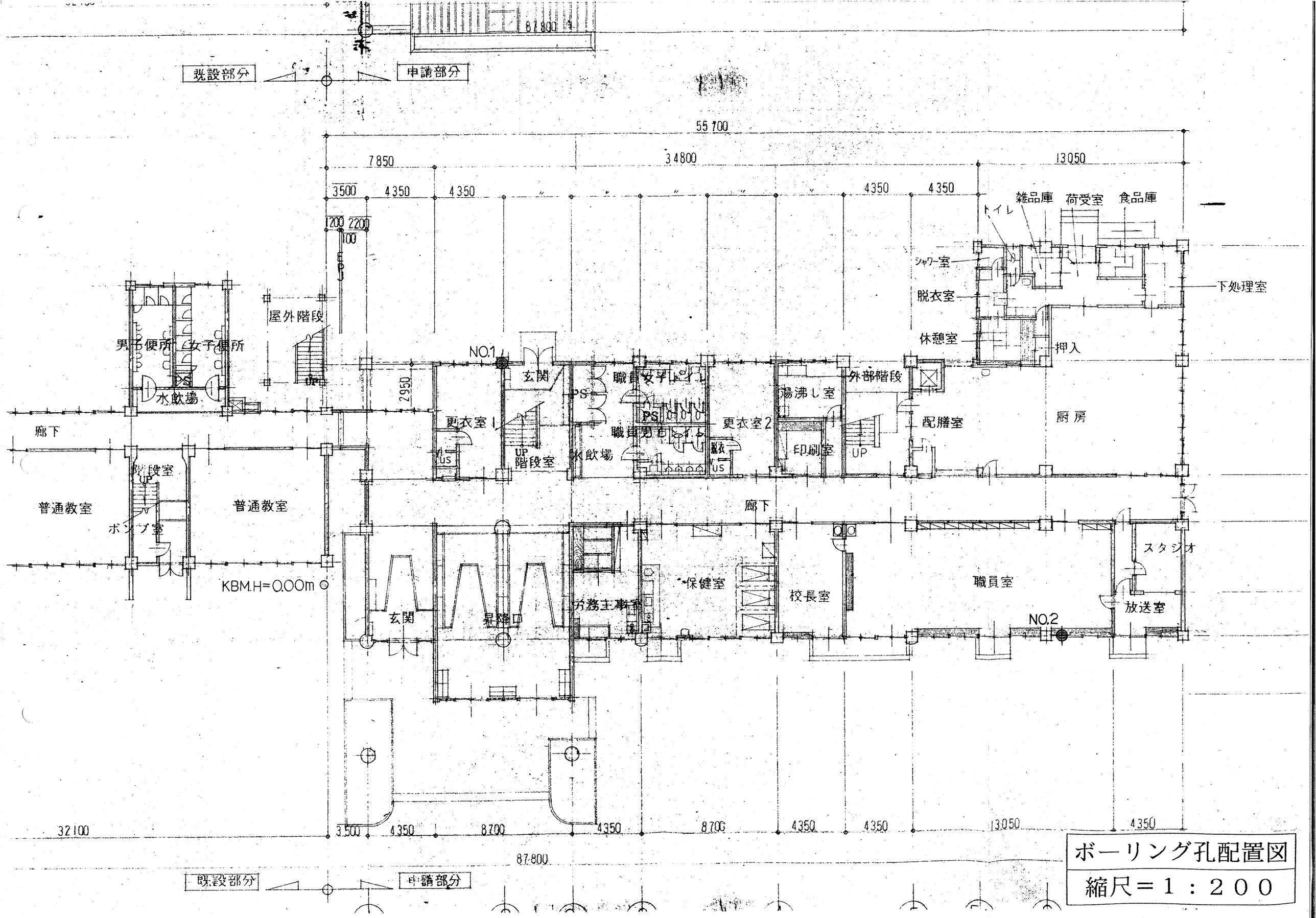
調査地案内図


N
石那田町
新町
沢田
仲内
六本木
大網町
上町
桑原
仲根
猪倉
門前
田中
上横倉町
徳次郎町
下町
西根
栗谷
落内
上野
久武
新里町
畑中
藤本
茗荷沢
高谷林
大堀
宝木本町
金井町
下金井町
矢杉屋
森林公園
西田中
岩本
細野
岩原町
松沢
仁良塚
梧理道
野沢町
立岩
福原町
遠北
甲内
田下町
大谷町
瓦作
足軽
後根
田野町
坂本
上組
下組
荒針
戸室
下駒生
駒生町
若草
大久保
金沢
飯田
五斗蒔
前林
飯岡
下飯田
荒針
野瓦
国立療養所
ろう学校
国立病
戸祭
上戸祭町
1:50,000
0
500
1000
2000
3000
4000m



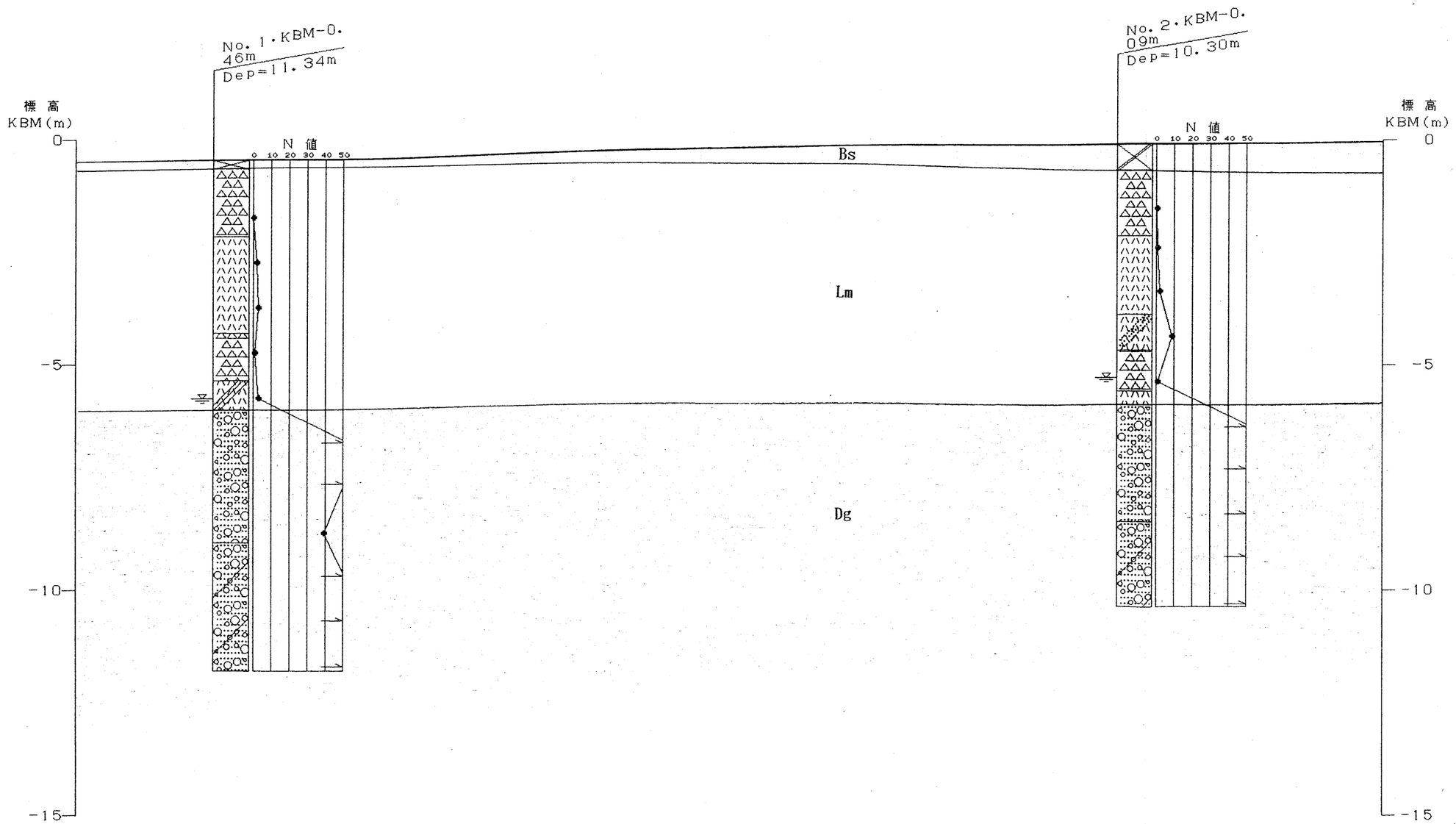
ボーリング孔配置図

縮尺＝１：２００

想定地層断面図　H=1:200, V=1:100

凡　例

- Bs …表　土　層
- Lm …ロ　ー　ム　層
- Dg …砂　礫　層



ボーリング柱状図

調査名　富屋小学校校舎改築工事

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

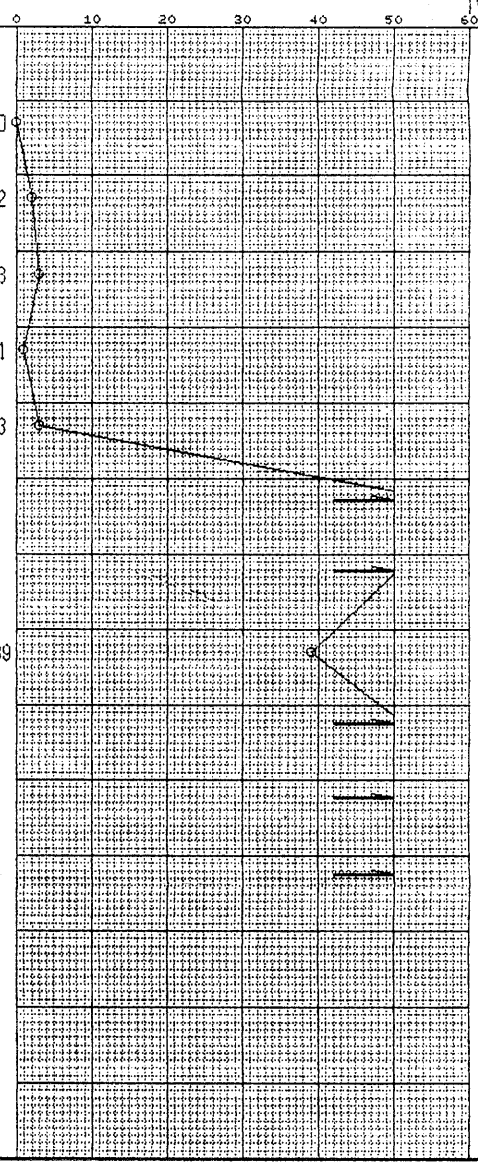
ボーリング名	No.1	調査位置	宇都宮市徳次郎町63－2			北緯	
発注機関	宇都宮市役所			調査期間	平成 6年 1月26日～ 6年 1月27日	東経	
調査業者名	株式会社 猪瀬建築設計事務所 電話(0286-24-4426)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	KBM -0.46m	角度	180°上 90° 下0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	試錐機 加納KR－100	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	11.34m								エンジン EA－10N	ポンプ	V6－B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-0.66	0.20	0.20		表土	黒褐		軟らかい	含水比中位。粘性低～中位。極少量の草根混入。
1	-2.16	1.50	1.70		軽石	黄褐～赤褐～褐		軟らかい	今市軽石。上部腐植物混入。含水比中位。粘性中～高位。粒径1～20mm程度。所々固結している箇所あり。極少量の小礫混入。下部粘土分を多く含む。
2 3	-4.31	2.15	3.85		ローム	茶褐		軟らかい	含水比中位。粘性中～高位。若干の炭化物混入。下部若干の砂分を含む。
4	-5.36	1.05	4.90		軽石	乳褐灰～乳褐		軟らかい	鹿沼軽石。含水比中位。粘性低～高位。上部4.25m付近まで細砂を多く含む。極少量の炭化物混入。
5	-6.01	0.65	5.55		粘土質ローム	茶褐		軟らかい	含水比中位。粘性中位。炭化物混入。極少量の軽石混入。
6 7 8	-8.96	2.95	8.50		砂礫	暗褐灰	密な		含水比中位。礫径2～30mm程度。礫最大径70mm程度。亜円礫及び亜角礫混在。6.15～6.25m間、フィルム状に細砂を挟む。基質部は細～粗粒砂より成る。8.00m付近より粘土分を含む。
9 10 11	-11.80	2.84	11.34		粘土混り砂礫	暗褐	密な		含水比中位。全体に粘土分を含む。礫径2～50mm程度。礫最大径70mm程度。亜円礫及び亜角礫混在。所々緩い砂層を帯状に挟む。基質部は中～粗粒砂より成る。8.70m付近より全逸水。若干崩壊あり。
12 13 14									

孔内水位(m)／測定月日：1/27 5.30 ▽

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	モンケン自沈			0/30	0
1.45 2.15	1/16	1/14		2/30	2
2.45 3.15	1	1	1	3/30	3
3.45 4.15	1/30			1/30	1
4.45 5.15	1	1	1	3/30	3
5.45 6.15	6	18	26/5	50/25	
6.40 7.15	32	18/1		50/11	
7.26 8.15	16	13	10	39/30	39
8.45 9.15	26	24/8		50/18	
9.33 10.15	37	13/5		50/15	
10.30 11.15	11	39/9		50/19	
11.34					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験( )	掘進月日

ボーリング柱状図

調査名 富屋小学校校舎改築工事

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	宇都宮市徳次郎町63－2			北緯	
発注機関	宇都宮市役所		調査期間	平成 6年 1月27日～ 6年 1月28日		東経	
調査業者名	株式会社 猪瀬建築設計事務所 電話(0286-24-4426)	主任技師	現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	KBM -0.09m	角度 180°上 90° 下0°	方向 北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配 鉛直90° 水平0°	使用機種 試錐機	東邦D－OS	ハンマー落下用具 トンビ
総掘進長	10.30m				エンジン	ヤンマー NF 110	ポンプ PA－3

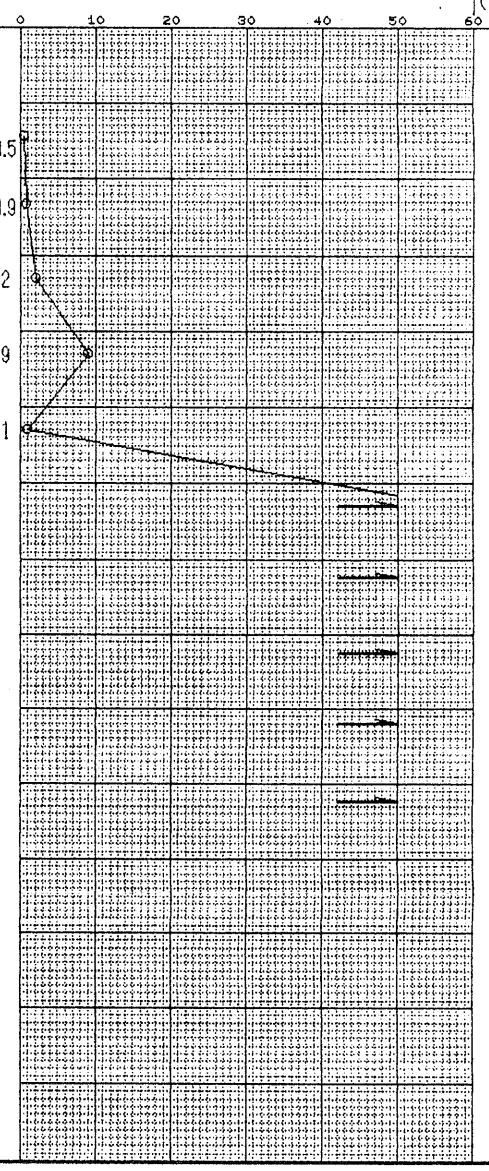
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-0.69	0.60	0.60		盛土	暗褐		軟らかい	含水比中位。上部0.20m付近まで粗砂等(山砂)より成る。腐植物混入。
1	-2.14	1.45	2.05		軽石	赤褐		軟らかい	今市軽石。上部腐植土及び黄褐色の軽石混在。含水比高位。粒径5～10mm程度。全体に砂分を含む。
3	-3.89	1.75	3.80		ローム	茶褐		軟らかい	含水比高位。炭化物混入。3.00m付近より所々火山灰混入
4	-4.69	0.80	4.60		砂質ローム	茶褐		中位	含水比中位。全体に砂分を含む。
5	-5.59	0.90	5.50		軽石	淡褐		軟らかい	鹿沼軽石。砂質分を含む。
	-5.89	0.30	5.80		ローム	茶褐		軟らかい	含水比高位。下部礫を混在。
6 7 8	-8.49	2.60	8.40		砂礫	暗褐灰	密な		含水比高位。亜角礫主体。礫径2～60mm程度。礫最大径80mm程度。所々に玉石を点在する。逸水あり。
9 10	-10.39	1.90	10.30		粘土混り砂礫	暗褐灰	密な		含水比高位。全体に粘土分を含む。礫径2～60mm程度。亜円礫及び亜角礫混在。玉石最大径150mm程度点在。
11 12 13 14									

孔内水位(m)／測定月日: 1/28 5.20

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15				
1.75	1			1/60
2.15	1			1/35
2.50				
3.15	1	1		2/30
3.45				
4.15	3	3	3	9/30
4.45				
5.15	1			1/30
5.45				
6.15	18	12	20	50/28
6.43				
7.15	29	21		50/15
7.30				
8.15	27	23		50/17
8.32				
9.15	50			50/8
9.23				
10.15	37	13		50/15
10.30				

N値



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験( )	掘進月日